



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 288

2021/03/01

今月の一枚

今月のイベント

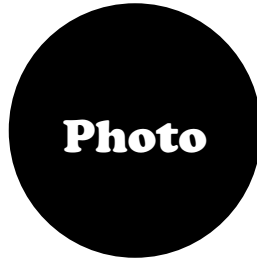
参加者募集

GREEN COLUMN

01. 特別展まであと少し
02. マイクロプラスチック調査



今月の一枚



「豊岡7遺跡」

表紙写真・文／八重柏誠

豊岡7遺跡は美幌町西部の北見市との境目付近、標高100～130mの丘陵地帯に立地しています。なだらかな丘の上で、旧石器時代の遺跡が確認されました。

現地に行ってみると、時間がゆっくり流れていそうな、のどかな風景が広がる耕作地です。今から1万数千年前には、まばらな針葉樹の林と草原が広がる荒涼とした丘だったと思われます。周りを見渡すことができる丘の上で、食料となる獲物を狙っていたのかもしれない。

Event. 今月のイベント

特別展「びほろのアケボノ～旧石器時代の遺跡～」 3月27日(土)～10月24日(日)

企画展「冬季作品展」～3月7日(日)

ロビー展「ひな祭りとひな人形」～3月3日(水)

プチ工房「バードコール」 3月26日(金),27日(土)

博物館講座(総合編)「わたしたちのふるさと情報」 3月27日(土)

Information. 参加者募集

プチ工房「バードコール」

●3/26(金),27(土) ①10:00開始,②10:30開始,③11:00開始,④11:30開始,⑤14:00開始,⑥14:30開始,⑦15:00開始,⑧15:30開始。所要時間15分～,作品ができたなら終了 ●美幌博物館1F講座室 ●材料費300円(お一人様1個まで),マスク ●町田善康(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(3/1-25)。小学3年生以下は保護者の同伴が必要,各回定員6名で締切。

博物館講座(総合編)「わたしたちのふるさと情報」

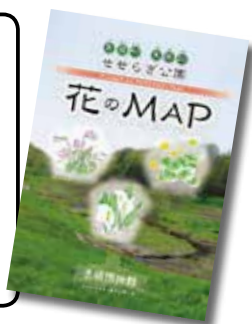
●3/27(土)9:30-12:00 ●美幌町民会館3F中ホール ●無料,マスク ●美幌高等学校生徒,鬼丸和幸(美幌博物館),雨谷教弘氏(知床財団),八重柏誠(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(3/1-26)。小学生以下は保護者の同伴が必要,定員50名で締切,定員に達しない場合は当日参加も可能です。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため,発熱がある,あるいは体調が優れない方のご参加はお控えください。各イベントは,内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により,一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上,ご参加ください。

「せせらぎ公園 花のMAP」が新しくなりました!

せせらぎ公園の花を絵や写真で紹介している「花のMAP」。ご好評とご要望にお答えして,花の種類を10種類増やして新しく生まれ変わりました。

3月27日(土)から美幌博物館1Fロビーで配布します。



今月の休館日

● ●
1日, 8日
15日, 22日
29日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用,持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

特別展まで あと少し

絵／加藤利久・文／八重柏誠



旧石器時代。これが今回の特別展のメインテーマとしたものです。現在、「びほろのアケボノ」というタイトルで展示会の準備をしています。タイトルの「アケボノ」ですが、言葉の意味としては日の出の前、空が少しずつ明るくなっていく様子を指す「曙」から、人類の歴史の始まりである旧石器時代を日の出に例えたものとなっています。

北海道の旧石器時代は、おおむね1万年より前を指す傾向にあります。当時は氷河期と呼ばれる寒冷な気候でした。現在よりも平均で6℃ほど気温が低く、高山に降った雪は溶けずに氷河となったことから海面が低下し、最も寒い時には100m以上も低かったと考えられています。このため、北海道は、サハリンを経由して大陸と陸続きの半島になっていたと考えられています。陸続きになったことで、マンモ

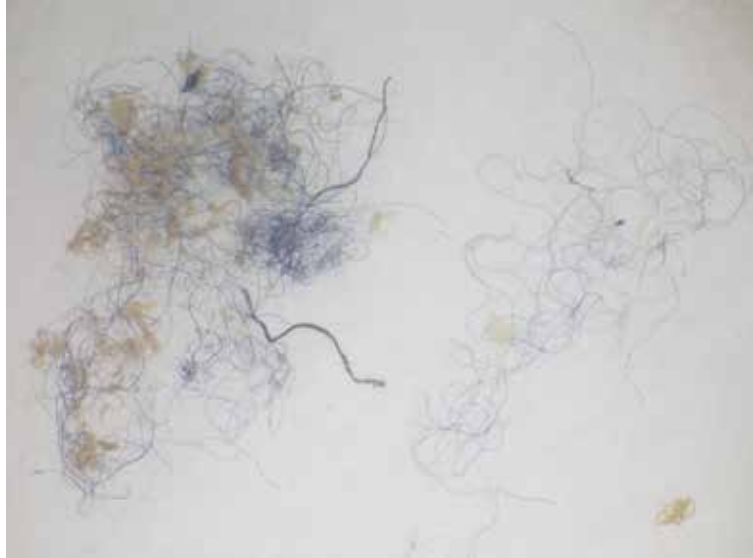
スゾウやヘラジカが渡ってきたと考えられています。

展示会に関連して、当時の美幌町をイメージしたイラストを作成しました。寒冷な気候のため、まばらな針葉樹の林が広がっています。そのような環境の中で、動物の毛皮のテント、石器作りや狩りをする人々が描かれています。

展示の内容ですが、美幌町出土の旧石器時代の資料を余すことなく展示する予定です。中でも、美幌町最大の旧石器時代の遺跡、元町2遺跡は、遺物点数が10万点以上にものぼり、今回の展示の中心資料となっています。どのような石器が展示されているのか、それは皆様の目で確かめていただけたらと思います。3月27日（土）まで約1ヶ月。ラストスパートで準備を頑張りたいと思います。

マイクロプラス チック調査

写真・文／町田善康



グリーンレター 269号（2019年6月1日発行）で話題に挙げたマイクロプラスチック（MP：5mm以下のプラスチックごみの総称）の調査結果を皆さんにお知らせすることをすっかり失念していました。今回は、2019年に行った網走川の結果と2020年の駒生川の結果を合わせてお知らせします。

網走川では、流域の1市3町で調査を行い、すべての場所でMPが見つかりました。しかし、見つかったMPの個数については、全国平均の1.6個/m³と比較すると少ないことがわかりました（津別町0.34個/m³；美幌町0.90個/m³；大空町0.27個/m³；網走市0.85個/m³）。

次に、駒生川での調査です。駒生川では、上流から下流までの4地点で調査を行いました。最上流ではMPが発見されない場所もありましたが、

流下するにしたがってMPが徐々に増え、中流域で最大の1.03個/m³となり、最下流では0.68個/m³に減少しました。こちらも網走川と同様に全国平均を下回る結果でした。

どちらの川でも、流れが緩やかになる下流域では、MPは少なくなりました。元来、プラスチックは水に浮く性質がありますが、藻類などの有機物が付着することで重くなり、水の流れが緩やかになると、川底に沈殿している可能性があります。

また、採集されたMPは、どちらの川でも繊維状のものが多く、普段私たちが着ている衣類などが発生源であると考えられるものばかりでした。この結果をうけて、私もなるべく化学繊維（アクリルやポリエステルなど）を利用しないよう生活改善に取り組むようになりました。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



最近、エゾモンガの過熱ぶりが異様です。数十人が巣穴の前でカメラを構え、出てきたそばから小さなモンガを追いかけます。可愛い生き物であるのはわかりますが、見たい気持ちもわかりませんが、自分がモンガだったらと置き換えてみて、節度ある付き合い方を望みます。(町田)